



第71号  
 発行  
 釧路湖陵同窓会  
 くまざさ編集委員会  
 発行日  
 平成29年8月12日  
 印刷所  
 藤田印刷(株)

# 快挙!! 創部初のインターハイ出場決定

## 並みいる強豪校を下しての全道制覇 湖陵高校山岳部

今年6月19日から24日にかけて行われた「北海道高等学校登山選手権大会」において、湖陵高校山岳部男子パーティが、創部以来初となる最優秀賞(1位)を獲得、インターハイへの出場権を獲得しました。同時に女子パーティも優秀賞(2位)に輝くなど、全道高校の山岳部関係者を前に「釧路湖陵ここにあり」という存在感を見せ付けました。全国から強豪校が集う今年のインターハイは、山形県の蔵王・月山が舞台。北海道の代表として、堂々たるアルピニストぶりを発揮してくれることを期待しましょう。参加するのは山木武揚君(3-3)、池田風君(3-3)、高村丞君(3-1)、柴田創平君(2-6)の4名です。



6月24日の全道大会を終えて

取り戻すとともに、ペーパーテストの練習を繰り返すなど、体力と知力の向上にも力を注ぎました。記者も寡聞にして初耳だったので、山岳部の大会では運動部でありながら、登山知識や気象、地図の解読能力、さらには会場地域の動植物に関する知識などが問われるペーパーテストがあり、全体評価の少なからぬ割合を占めるといいます。なるほど、全道大会に進出した各地区代表校の顔ぶれを見ると、札幌南や旭川東、函館ラサール、小樽湖陵、帯広柏葉、室蘭栄など、そうそうたる進学校ばかりが並んでいるのも頷けます。

6月に入ってからは、より総合的なレベルアップを目指して、全道大会に向けての実践的な練習を積んできました。そして迎えた全道大会の舞台は、胆振地区にあるカムイヌプリ(746m)、室蘭岳(911m)、カルルス山

<b>目次</b>	活躍する湖陵生.....	2~4頁	各地湖陵会だより.....	6頁
	湖陵17期東京で同期会 .....	3頁	学園だより.....	7頁
	大谷君が米国でホームステイ.....	5頁	当番期だより・高坂先生に高後賞...	8頁
	田巻さん慰霊の集い実行委員長に...	5頁	編集後記.....	8頁

湖陵同窓会HP <http://kushiro-koryo.sakura.ne.jp/>



「『戻って来たい!』と思える街づくりを」と森崎さん

(1075m)、来馬岳(1040m)の4峰。悪天候によるコースの変更や屋内泊などのアクシデントにも臆することなく、男子パーティは最高の成績をおさめてインターハイの出場権を獲得したのでした。

きたため、今年は最初から1位を目指して、本気で頑張りました」と語ってくれました。4人のメンバー全員、中学時代の部活動が野球や水泳、空手、剣道など、基礎体力に不安のないアスリート揃いであったことも、今回の勝因の一つなのかも知れません。

山岳部を率いて11年目という山岳部顧問の飯田一三先生も「私自身、全くの山の素人だったので、ベテランの先輩から顧問を引き継ぎ、生徒たちと一緒に11年間の山登りを経験し、ようやくここまで辿り着けました。むしろ来年の3年生にと

### 活躍する湖陵生

って、前年優勝校というプレッシャーにならないか、心配です」と話してくれました。出場する4名の男子部員たちは、目前に迫った山形でのインターハイ登山に向け、「湖陵祭」の期間中も斜里岳で最終調整に望むとのこと。鍛え上げた最高のパフォーマンスを発揮しての健闘を祈ります。

西村貞広(湖陵30期)



摩周岳における訓練登山

## 女性の力を産業に活かして 地域を元気に

「株式会社 MOKA」(釧路市) 代表取締役  
森崎 三記子さん (湖陵27期)

「株式会社 MOKA (モカ)」のコンセプトは、「女性の力×地域産業」地域を元気に!。会社組織として活動を始めたのは今年からなので、耳にしたことのある人はまだ少ないかもしれませんが、市民活

動として2011年にスタートした「釧路モカ女性プロジェクト」と、その「製品」である「魚網タオル」は、市内の大型店やM O O、釧路空港売店、和商市場などで販売されて話題を呼び、新聞等のマスコミにも



オリジナルのアイデアとして「食器洗い」にも使うことを考えだします。

「早速、漁網製造をしている知人にお願いでみると、快く大量に譲っていただけました。これからは、家庭でできる内職仕事を探している女性たちに作ってもらおうことにしました。これが誕生の経緯です」と明かしてくれました。魚網タオル作りは、幸いにも軌道に乗れ、現在も多くの女性たちの生活を支える一助となっています。

大きく取り上げられてきましたので、ご存知の方も多いのではないのでしょうか。

湖陵27期卒の森崎さんは、「ハローワーク 釧路」の嘱託職員として13年間にわたり、就職支援ナビゲーターとして主に女性の就職支援に携わり、新たな雇用創出の必要性を痛感して「MOKA プロジェクト」を立ち上げました。「MOKA」とは、「Motto Ooikku Kakoyoku Aritai (もっと大きく、格好よくやりたい)」の頭文字だといいます。「私がプロジェクトを立ち上げたのは、東日本大震災によって仕事を失った浜の女性たちなどの逞しい力を、もっと地域産業に活かし、地域の活性化に繋がられるのではないかと考えたからです」と話す森崎さん。以前からサンマ漁などで用いられる魚網の切れ端を使い、「垢こすり」としてポデーター代わりを使うことや、さらには

この春から会社化された「MOKA」の業務内容は「人づくり」と「地域づくり」。魚網タオル製造などの「仕事創造事業」や「人づくり講座」に加え、自らが認定心理士やキャリアカウンセラーの資格を持つ「キャリアコンサルタント」業務では、これまで培ったノウハウや人脈を「釧路のマチに還元する」ため、市内の企業と契約してスタッフの研修を担当、人材の育成や定着率の向上につなげることを目標にしています。

「最終的な私の目標は、一度は釧路を離れた若者たちが『戻って来たい！』と思える街づくりです」と語る森崎さん。「やる気」のある人と「やり甲斐」のある仕事を繋げる、あるいは漠然と今の仕事をしている人たちに「働く意欲」と「将来の目標」を与えてくれるキャリアコンサルティングという仕事に、誰よりも意欲と情熱、さらには「やり甲斐」を感じている森崎さんなのです。

詳しいお問い合わせは「株式会社 MOKA」(0154-3510045)まで。

西村貞広(湖陵30期)

## 17期東京同期会

釧路湖陵17期(1965(昭和40)年卒)の東京同期会が、昨年10月16日にカーサ・アフエリス銀座で開かれました。同期会には、東京周辺ばかりでなく、釧路、札幌、八戸、富山、神戸などから54人が参加しました。

石田伸之さん(I組)の開会の辞に続き、物故者への黙とう、そして校歌を斉唱しました。幹事の五本孝幸さん(A組)があいさつをして乾杯、懇親会に入りました。

懇親会では、釧路から参加した大町喜勇さん(B組)が、8月から9月にかけて北海道を襲った台風被害について、また、同じく綿貫健輔さん(A組)は「これからもできるだけ参加したいと思っています。釧路の同窓生もがんばっていきましょう」と近況を報告していました。

懇親会では「また来年も実施してほしい」との声も寄せられ、幹事では検討しています。17期の連絡先は五本さん043(377)8000まで。

星 匠(湖陵30期)



釧路湖陵高校17期 平成28年 東京同期会

2016.10.16 於：カーサ・アフエリス銀座

昨年10月に開かれた東京同期会に参加した17期のみなさん

## ふるさとでのPRをもっと

フリーアナウンサー（札幌市在住）

水本 香里さん（湖陵37期）



「もっとふるさと釧路に関わる仕事をしたい」と水本さん

の時間帯のニュースや天気予報などに出演中です。

水本さんの趣味は、「食べ歩き」。番組の中で紹介するとともに、「札幌とつても上質なディナー」など、これまでも多くの著書を出版したり、寄稿しています。でも、年に6回くらいは釧路に帰る水本さんにとって、楽しみなのは「釧路の食材を使った母の手料理」だそうです。

2006年からフリーアナウンサーとして活躍する水本さん、事務所にも所属していませんので、病気やケガなどで、休むわけにはいきません。「スケジュールと体調の管理には、気をつけています」。

## 釧路への思い

釧路を離れて仕事をしてはいますが、ふるさとのことを忘れたことはありません。2013年9月に釧路市観光国際交流センターで行われた北海道釧路湖陵高等学校100周年・定時制90周年記念祝賀会では、司会を務めました。また、今年5月に札幌市内で開かれた釧路市出身者や勤務経験者などでつくる「さっぽろ釧路会」でも司会を務めました。それだけではなく、事務局長を担うことに決まりました。

## 目の前の「一生懸命」

後輩に一言をお願いしました。水本さんは「学生時代に将来が見えている人は少ないと思います。進路を迷うのは当たり前です。まずは目の前にあることを、一生懸命に取り組むと、少し見えてきますよ」とアドバイスしていました。

星 匠（湖陵30期）

## アナウンサーに興味

水本さんは現在、札幌市を中心に、ラジオ、司会、ナレーションなど、幅広い仕事をしています。

釧路市立大楽毛小学校、同中学校を卒業して、釧路湖陵高校に入学しました。校舎が、富士見町にあった時代。放送局（VOK）に所属していたのかと思います。だが、バスケットボール部でした。「当時はアナウンスとかに、それほど興味はありませんでした」と振り返ります。

高校時代の思い出として、学校祭での行灯行列などの行事もありましたが、「ジャージを着て、模試を受けてそのまま体育館でバスケの練習をしたのが懐かしく思い出されます」と笑います。

北海道女子短期大学へ進学、教員を目指

## 母の手料理が大好き

していました。しかし卒業後、母親の勧めもあり、NHKのリポーターに応募したところ採用され、釧路放送局で働くことになりました。テレビニュースのレポーターやラジオ番組などを手がけていましたが、これがきっかけでテレビやラジオに興味を持ち始めました。「少し練習したくらいではできません。奥がとて深く、もつとまくなりたいかったですね。地元でレポートしているうちに、ネタを見つけるおもしろさも知りました」と話します。

NHK釧路放送局からHBC釧路放送局を経て、1990年エフエム北海道に入り、札幌へ移りました。さまざまな番組を担当していましたが、15年間勤務して退社、フリーに。現在もエフエム北海道の朝

## 米国で英語を勉強したい

大谷さんは、米国ロサンゼルス在住の北海道出身者で組織されている南加道産子会主催の第20回道産子高校生L Aホームステイプログラムで最優秀賞を受賞し、3月27日から4月7日まで、ロサンゼルスを中心にホームステイを経験しました。

小学校の頃から英語を習っていたという大谷さんは「アメリカで英語を勉強したい」と、ずっとホームステイを希望していました。そこで紹介されたのが、同プログラムでした。

## 生命を選択すること

ホストファミリーは、70歳代の夫婦。これまで13年間、日本人の高校生を受け入れてきましたので、「ご主人は簡単な日本語は話すことができました」と言います。「日本人の夫婦と少し違い、仲がよく、ラブラブだったのには驚きました」と笑います。

日常の英会話は「聞き取ることに苦労をしたこともありましたが、単語を組み立てていくと、意味がわかるようになりました」と話します。

ホームステイでの研修先は、将来希望している進路を尊重します。大谷さんは大学の医学部を目指しているのですが、ロナルド・レーガン記念病院を訪問しました。

そこで目にしたのは、ICU(集

中治療室)で生死をさまよっている患者の姿。医療機器のすばらしさもさることながら、日本のように保険制度がほとんどないことから、ICUに入ると1日100万円かかることに衝撃を受けました。「家族の生命を選択する必要性に迫られます。日本とは価値観が違いました」と驚いていました。

## 異文化を知ること

いろいろな高校も訪問しました。地域によってアジア系が多い高校、白人が多い高校などがあります。日本でも先住民族はいますが、米国のように多種多様な民族が集まり、普通に生活を共にしている姿に大谷さんは「貴重な体験でした」と振り返ります。

「ラグビーの日本代表には、日本

に帰化した選手が活躍しています。まだ日本には違和感があるかもしれませんが、これからは移民を受け入れるなど、少しずつ変わっていくのじゃないか」と話します。

## 釧路で医者になる

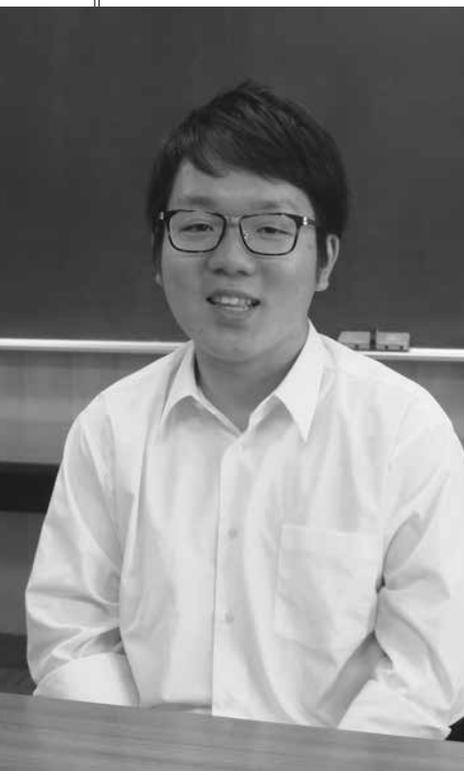
大谷さんは、医学部に進学し、さらに米国でがんの治療を学び、「将来は釧路で医者になる」と夢を膨らませています。地元に戻りたいのは「釧路が好き」だからです。

米国での生活を経験し「自分の考えが小さいことがわかりました。ホームステイは、とても貴重な体験なので、後輩たちもぜひ行ってほしいですね」と期待しています。

星 匠(湖陵30期)

# 異文化に触れて 米国にホームステイ

釧路湖陵高校理数科3年 大谷 和季さん



「先輩たちもぜひ異文化に触れてほしい」と大谷さん

# 集いの霊慰襲空路釧路 実行委員長に田卷さん



田卷さん

1945年7月14、15日は、釧路市民約2000人が空襲で亡くなった記念すべき日です。犠牲者の追悼セレモニーが毎年、釧路市栄町平和公園で行われています。新任ホヤホヤの実行委員長、田卷恒利さん(湖陵18期、くまざさ編集委員会事務局長)にインタビューしました。

— 前実行委員長の故佐藤昌之さんを引き継ぐのですね。

田卷さん (佐藤さんは)音楽家として平和の語り部として偉大な人です。母校が同じ(湖陵2期)という共通項しかありません。

— 戦争体験は?

田卷さん 1947年生まれで、体験しておりません。

— 就任を引き受けさせたものは?

田卷さん ガレキの街から再生発展した釧路への愛郷心でしょうか。

— 戦後72年、戦争体験の風化が言われます。

田卷さん 72年という世代交代が三代、つまり孫の世代に向けて戦争の恐ろしさを語り伝えることでしよう。この点で、記念の月になると小学校へ出向き、戦争や空襲の恐ろしさを話された佐藤先生の「語り部」の仕事には頭が下がります。私は私で祖母や両親から聞いた戦争の惨劇、市民生活のこまごまを後代の釧路っ子に話してゆこうと思います。

堀川春昭(湖陵12期)

## 東京湖陵会

東京湖陵会総会、懇親会が、6月17日にホテルポール麹町で開かれました。今年の幹事期は40期で、首都圏を中心に約170人が参加しました。

総会では、亡くなった同窓生に黙祷をささげ、続いて校歌を斉唱しました。諏訪幹雄会長(湖陵23期)が「これから多くの同窓生に足を運んでもらい、世代を超えて故郷釧路に思いをはせる場所として続けていきたい」とあいさつ、続いて釧路湖陵高校の橋本達也校長、釧路市東京事務所の若生貴仁所長(同31期)、釧路湖陵同窓会の島本幸一会長(同19期)が祝辞を述べました。

議事では、2017年度事業計画として、年2回の会報発行、会員の拡大と組織化、釧路湖陵同窓会をはじめ、各湖陵会との連携などを決めました。

懇親会では、釧路の特産品が当たる抽選会も行われて盛り上がり、各テーブルでは高校時代の思い出やふるさと釧路の話に花が咲いていました。

星 匠(湖陵30期)



「湖陵釧路に思いをはせる場所に」とあいさつする諏訪会長

## 札幌湖陵会

第31回札幌湖陵会が、7月1日にポールスター札幌で開かれました。札幌湖陵会には、全国から約260人が参加、釧中27期から湖陵57期まで幅広い年代の同窓生が交流を深めました。

定期総会では、物故会員に黙とうがささげられたあと、全員で校歌を斉唱しました。稲村尊史会長(湖陵26期)は、「今回は湖陵34、35期のみなさんが準備をしてくれました。世代を超えて楽しい時間を過ごしてください」とあいさつ、続いて来賓として釧路湖陵高校の橋本達也校長が現役生徒たちの活躍を報告するとともに「釧路を背負って立つ人材を育てていきますので、今後ご支援を」と祝辞を述べました。

懇親会は、釧中27期の渡辺實さんが乾杯の発声を行い、始まりました。ステージでは、恒例の応援歌が披露され、最後には、釧路湖陵同窓会の川向貴子副会長(湖陵29期)、東京湖陵会の三上希予子副会長(同18期)、関西湖陵会の小川清至会長(同17期)が中締を行い、閉会しました。なお、次年度の幹事期は湖陵35、36期です。星 匠(湖陵30期)

▽会長 稲村尊史(湖陵26期)▽副会長 浅沼和明(同28期)、長浜光弘(同32期)▽幹事長 鹿又智峰(同30期)▽幹事 畑みゆき(同28期)、残間渉(同45期)▽会計 佐藤里枝(同33期)、小波朋子(同42期)▽新任▽会計監査 菊地克保(同13期)

▽名誉顧問 中川晋(同11期)、一関庶路(同)▽顧問 伊藤拓摩(同21期)、進藤一夫(同)、山崎光裕(同)



「湖陵釧路に思いをはせる場所に」とあいさつする諏訪会長

## 関西湖陵会

第10回関西湖陵会が、5月20日にヴィアール大坂で開かれ、約30人の同窓生が参加しました。

関西湖陵会に参加したみなさん



総会では、物故者への黙とうに続き、校歌を全員で歌いました。関西湖陵会の小川清至会長(湖陵17期)が、「10周年を迎えることができ、発起人の高橋基道さん(同11期)、佐藤敏哉さん(同)、今井善紀さん(同12期)をはじめ、諸先輩に感謝します。今後も、和気あいあいと続けていきたいと思っておりますので、知り合いの同窓生にお声をかけていただき、多くの方が出席できますよう、ご協力よろしくお願ひします」とあいさつしました。

このあと、釧路市の蝦名大也市長(同29期)、釧路湖陵同窓会の島本幸一会長(同19期)、札幌湖陵会の稲村尊史会長(同26期)、東京湖陵会の和泉美紀会計長(同35期)が祝辞を寄せました。

懇親会では、西田暉至さん(同7期)が乾杯の発声をし、参加者の近況報告、最後には応援歌を合唱して終了しました。

星 匠(湖陵30期)

は、見事に全国大会（総文祭）の  
出場権を手に入れました。

## 〔10月〕見学旅行

10月15日から2年生が2班に分  
かれて見学旅行に出かけました。  
京都、奈良、そして東京への4泊  
5日の旅行でした。行く先々で普  
段は目にするのではない日本文化  
に触れ、多くのことを吸収できる  
有意義な旅行になりました。

## 〔2017年〕

### 〔1月〕センター試験

221名の生徒が北海道教育大  
学釧路校と釧路公立大学に分かれ  
て受験しました。受験率は93%を  
超え、近年では最も高い数字です。  
多くの先生方が寒い中、両会場ま  
で激励にかけつけました。

### 〔3月〕卒業式（1日）

237名の生徒が湖陵生として  
の誇りと夢を胸に抱いて学舎を巣  
立ちました。そしてこの瞬間、わ  
れわれ同窓会の仲間入りです。

### 高校入試（3日）

例年通り普通科5間口、理数科  
1間口の募集です。理数科では推  
薦入試も行われています。今年も  
多くの中学生が湖陵高校入学を目  
指して受験しました。

## 大学合格発表

3年間の学習の成果が実り、多  
くの生徒が合格を勝ち取りまし  
た。特に本校生徒の多くが希望す  
る国公立大学には現役で114名  
が合格しました。また今年も、東  
京大学にも合格者が出ています。  
昨年引き続き素晴らしい結果で  
す。浪人生も頑張りを見せてくれ  
ました。医学部医学科を含む多く  
の難関大学に合格者を出しまし  
た。

## 教職員異動

6名の教職員が異動されまし  
た。転出された皆さんには在籍期  
間の長短はあるものの、それぞれ  
が湖陵高校のために大きな力を尽  
くしていただきました。本当にど  
うもありがとうございます。

## 〔4月〕教職員異動

中川教頭を始め7名の教職員が  
着任されました。どうぞよろしく  
お願いします。

## 入学式（8日）

240名の新入生が夢と希望を  
持って湖陵高校に入学しました。  
湖陵で多くのことを学び、社会へ  
と羽ばたいてくれることを期待し  
ます。

## 宿泊研修

1年生全員が研修に参加し絆を  
深めました。場所は川湯第一ホテ  
ル忍冬です。湖陵の歴史や高校で  
の学習方法について学んだり校歌  
練習をしたりと、湖陵72期生の本  
格的な高校生活が始まりました。

## 湖陵の日

P.T.A総会と授業参観、進路講  
演や学級懇談などを併せて毎年4  
月の第4土曜日に行われていま  
す。夜はキャッスルホテルに会場  
を移して、懇親会が開かれました。  
教職員と保護者で合計81名が参加  
して、懇親を深めました。

## 〔5月〕教育実習

11名の卒業生が大学を離れて現  
場での実習を経験しました。生徒  
にとっては年齢の近い先輩であ  
り、新鮮な気持ちで授業に取り組  
めたようです。

## 高体連・高野連釧路支部予選

3年生にとっては最後の大会  
で、みんな全力で戦ってきました。  
多くの運動部が団体または個人で  
全道大会出場を果たしています。  
野球の支部予選は釧路市民球場が  
改修中のため別海町で行われまし  
た。日曜日には器楽部・応援団・

けました。試合は雷雨の影響によ  
り途中で中止になりましたが、一  
体感を持って応援できたことは良  
い思い出になったようです。

## 〔6月〕高体連等全道大会

陸上（女子個人）・放送（朗読  
部門・アナウンス部門）・山岳（男  
子団体）が全国大会への出場を果  
たしました。山岳部の全国大会出  
場は初の快挙です。少ない部員数  
や学習との両立など数々の問題を  
克服して勝ち取った全道優勝は素  
晴らしいものです。また惜しくも  
全国出場は逃しましたが、山岳女  
子団体も全道準優勝を果たしてい  
ます。

## 〔7月〕湖陵祭

行灯行列やクラス対抗の歌合  
戦、3年生によるクラス演劇など、  
湖陵祭の伝統は引き継がれていま  
す。特に行灯行列では同窓生の皆  
様を始め、多くの市民の方々に応  
援していただきました。本当にど  
うもありがとうございます。

以上で1年間の報告とさせてい  
たきます。今後とも母校と後輩  
たちのために、どうぞよろしくお  
願いいたします。

田中嘉寛（湖陵36期）

〔9月〕新人戦・高文連  
多くの部活動が素晴らしい成績  
を収めました。特に書道部の生徒

## 〔2016年〕

### 〔8月〕統一学校説明会

本校体育館を会場にして行われ  
る湖陵高校進路指導の最大のイベ  
ントです。道内外から80近くの大  
学・短大・予備校等の事業所など  
が参加して行われました。生徒た  
ちは各大学のブースに積極的に足  
を運び、熱心にお話を聞いたり質  
問していました。一つの高校が主  
催して多くの大学に参加してい  
たくというスタイルは最近でこそ  
他校でも見かけるようになりまし  
た。実は湖陵高校が最も長い歴  
史を持つのです。今年も8月25日  
に第15回が予定されています。

# 当番期だより

本日12日、同窓会総会を迎えることができました。これまで広告のお願いのためお伺いした企業の皆様、また、会券購入のお願いのためお伺いした諸先輩に、多大なご協力を賜りましたことに、心からお礼申し上げます。大変ありがとうございました。

諸先輩方のこれまでのご尽力を引き継ぎながら、幅広い世代が語

り合い、楽しく活気あふれる会にしたいと幹事は意気込んでおります。

実のところ、私は過去一度も同窓会に出席をしたことがありませんでした。この度幹事という役を頂き、初めて参加致します。これまで、同窓会にはあまり縁の無い物と考えておりました。しかし、準備を進める中で在学中は話をした事の無かった同期生との接点も生まれ、またこれを機に同期の同窓会を盛大にやろうという機運も高まり、今は同窓会への参加がとても楽しみなものとなっております。

須崎和仁(湖陵45期)

## 合唱部顧問、高坂さんに高後賞



音楽協会総会で歌声を披露する合唱部

6月11日にANAクラウンプラザホテル釧路で釧路音楽協会の総会が開かれ、第38回高後賞に釧路湖陵高校合唱部顧問の高坂良修さん(湖陵31期)が選ばれました。

高後賞は、同協会を組織し、地域の音楽文化向上に尽力した故高後勉氏の功績をたたえ、釧路市内を中心に優秀な音楽活動をしてきた方に贈られる賞です。

釧路湖陵合唱部は昨年、NHK全国学校音楽コンクール、全国高等学校校総合文化祭に北海道代表として出場(くまざさ70号に掲載)したほか、地元でも定期演奏会や釧路市新年交礼会などですばらし

おります。本誌をご覧の方で、もし私と同じような感覚の方がおられましたら、本会を「待ち合わせの場所」と位置づけ、集まってみてはいかがでしょう。

至らぬ点も多いと思いますが、幹事期の35期、55期とともに、伝統ある湖陵会を来年へと引き継いでまいりたいと思いますので、皆様のご協力をよろしくお願い致します。

い歌声を披露しています。

高坂さんは、湖陵高校で合唱部に所属していました。これまでの教師生活で合唱部の顧問になったことがなく、4年前、釧路湖陵高校に赴任して、合唱部を初めて任されました。「母校で後輩を指導するので、とても愛着がありました」と話します。

「合唱はみんなで作くりあげるもの。評価してもらったのは、生徒たちのおかげ。これからも生徒と一緒に音楽をつくりあげたいですね」と感謝していました。

受賞後は、合唱部による歌声も披露され、参加者は澄み切った声に感動していました。

星 匠(湖陵30期)

## 編集後記

長い間、くまざさ編集委員を務められた、川端紀一先生の後を継いで、この号から編集委員になりました。教職員湖陵会の湖陵25期の奥田泰朗です。どうぞよろしくお願います。

せっかくですので、教職員湖陵会の宣伝を少しします。3年前に結成60年を迎え、記念式典を行いました。この会は湖陵高校の応援団だけではなく、自らのために、湖陵の卒業生で教員以外の職業に就いた方からの講演会を、昭和62年から継続して開催しています。今までに多種多様な方々のお話などを聞かせていただきました。それは教員の枠の中では体験できない生き様であり、非常に内容の濃いものであります。

さて、このくまざさと教職員湖陵会とは密接な関係があります。



堀川春昭、星匠、田中嘉寛、奥田泰朗、田巻恒利、佐藤文昭、西村貞広(右から)

60周年記念誌の編集に関わった関係で、知ることとなったのですが、昭和55年の記述でくまざさ復刊とあります。そこから平

成10年ころまで、主にこの会が編集を担当していたのです。昭和55年のは不明ですが、その当時の組村同窓会長との間で取り決めたところなので、かなり近い関係、あるいは湖陵高校に対する熱意のようなものまで伝わってきます。現在まで7名の先輩がくまざさ編集に関わってきています。

奥田泰朗(湖陵25期)

### 釧路湖陵高校

〒085-0814  
釧路市緑ヶ岡3丁目1番  
TEL(0154)43-3131  
ホームページ  
<http://kushiro-koryo.hp.infoseek.co.jp/>

### くまざさ編集委員会

- 同窓会会長 島本幸一(湖陵19期)
- 同窓会計長 佐藤文昭(湖陵22期)
- 編集委員長 星 匠(湖陵30期)
- 編集委員 堀川春昭(湖陵12期)
- 編集委員 奥田泰朗(湖陵25期)
- 編集委員 田中嘉寛(湖陵36期)
- 編集委員 西村貞広(湖陵30期)
- 編集委員 須貝喜治(湖陵49期)
- 編集事務局長 田巻恒利(湖陵18期)

### くまざさ編集委員会

〒085-0014  
釧路市末広町2丁目4番地 栄屋旅館内  
TEL0154(23)0241  
手動代替FAX 0154(23)0242